

NO. 248

# 全 仏

5 / 54



## 「母の日」

五月の第二日曜は「母の日」です。もともとお母さんの愛をたたえ、敬愛するためにアメリカで行っていたものが、日本でも行事として行なわれるようになったといわれています。

「母の愛は海よりも深く」といわれておりますが、子棄て、子殺しといわれる昨今では、一層この母の日に、母親自身、思いを新たにしなければならぬでしょう。

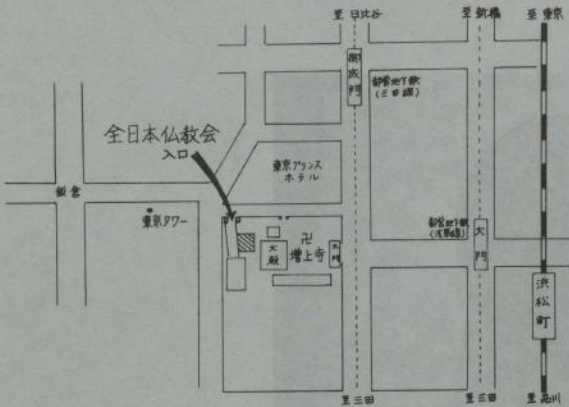
「母一億、わが母一人」という名言がありますが、大人になっても、自分の母に対する感謝と、いつくしむ気持は万人変ることはないでしょう。たとえ母の思い出がづらいものでも、今日の自分を育て、社会で生きてゆけるようになったおかげです。

私たち仏教徒にとりまして、母なる釈尊の教えをいたたく感謝の日として、御自分の母に対し感謝をささげなければならぬと思います。(M)

(写真はタキシマ博物館にある仏像—関連記事四画)

# 全仏事務所が移転

新住所 〒105 東京都港区芝公園4-7-13  
電話番号 03(437)9275(代)



芝増上寺の裏 東京タワーから二分

## 第26回全日本仏教徒会議

### 茨城大会は十月十五日に水戸で

第二十六回全日本仏教徒会議茨城大会は、今秋十月十五日(月)に全日本仏教会、茨城県仏教会の主催によって開催されることが決定した。会場は水戸市の水戸市民会館が予定されているが、テ

ーマナについては近々開かれる準備委員会で協議される。茨城県仏の大畑会長も数度来局され組織部と打ち合せを続けている。

### 引越し顛末記

☆十年間の浅草生活は溜り溜った書類の山。当時からの職員は数人のため捨てるか残すかの判断に苦しんだ。

☆古ハアルバムや未整理の写真でダンボール箱一杯。一枚づつみながら鎌田部長も感慨深げであった。

☆万博の書類もダンボールに二箱。関係者は服部主事一人だけに「あのときも大変だったよ」となつかしむ。

☆机、ロッカーも増えて大型トラック四台の引越し。移動は業者がやってくれたのでみているだけだが、部屋の中は少人数の職員だけ。格好はスポーツ選手のようなトレーニングウエアだが「腰が痛い」「二箱に持ってくれ」など、やはりみんな色男ばかりだった。

☆一番の難作業は金庫の搬入。部屋が二階なので作業員十人が壮烈なかけ声で運びこむ。みていた全仏職員はおもわず拍手。

☆電話工事が遅くなり静かな事務所も一度鳴りだしたらデンプワ、デンプワの連続となった。一番のりは大阪府仏の川口事務局長さんでした。ちなみに来局第一号は某銀行で、また事務所の整理の途中でしたがさすがですね。

☆だれが荷物が多いかということややはり女性軍が圧勝。コンテナもダンボールも問題にならず。なぜでしょう。

☆全仏の引越しのあとは数日雨また雨。雨降って地かたまる。とか。

十年前に築地本願寺より浅草の東京本願寺へ移転し、それ以来「全仏は浅草」と定着し事務をとり、多くの来局者がありました。このたび芝の増上寺裏にあった三康文化会館図書館の新築移転にもない、図書館の建物に移りました。四月十八日に引越しを完了し、十九日より同所にて事務をとっておりますのでお知らせ申し上げます。新住所、電話番号、地図などは上表のとおりです。

来局の場合は、国電「浜松町」より徒歩二十分、地下鉄浅草線「大門」より徒歩十五分(女性でも)、地下鉄三田線「御成門」から五分です。バスの場合は東京駅南口、新橋、渋谷などから乗車しますと「東京タワー前」下車にて徒歩二分位です。

近くには大本山増上寺をはじめ、東京プリンスホテル、東京タワーなどがあり緑地帯の環境のよいところです。

なお隣りの部屋には日本仏教保育協会が入りました。よろしくお願ひします。



ネパールの首都カトマンズドウから飛行機で約四十分、北にアンナプルナ諸峰、マチャプチャレ（魚の尾）の銀嶺を望み、静かな湖をひかえたボカラの町がある。日本の上高地を思わせるホテルや、登山用品を売る店が並ぶ質素な町である。ここから、かつては海底にあったヒマラヤの山々を証明する貝片の化石が多く発見される谷々を通って、北はシヨモソム、ムスタンを経てチベットへの道、南はガンタキの川を経て南部ネパール、タライ地方への道が通じている。インドの協力で最近完成した南への道は、山あいの絶景をぬって数時間、絵のように美しいタンゼンの町を遠望してプトワールの町に下る。ヒマラヤ南腹の山々はにわかに消えて、ここからは一望千里の平野、田園である。釈尊の母、マヤー夫人出身の地、デーバタハへの道を左に見て約一時間、カトランドウから毎日、定期便のあるバイラバに着く。ネパール政府の努力によって、釈尊生誕の地ル

ンビニーまで、バイラバ空港から気持のよいハイウェイを二十分の道のりである。その昔、求法の念にもえる法頭（五世紀）、玄奘（七世紀）がこの道を逆に東へ旅した際は、「荒林、広野を行く」状態であり、一九五〇年代ですら象をたよりに巡拝をはたしたという記録を見るにつけて、隔世の感を禁じ得ない。

ルンビニーでアショーカ王建立の石柱が発見され、記された銘文からここが釈尊誕生の地であることが確認されたのは一八九六年のことである。発見

## ルンビニー開発について

国際専門委員 佐藤良純

て、ネパールのマヘンドラ国王がこの地の再興に強い関心をいだき、続いて一九六七年、ウ・タント国連事務総長が国際的規模での開発計画を呼びかけるようになってからである。国連の下に、アフガニスタン、ビルマ、カンボディア、インド、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、ネパール、パキスタン、シンガポール、ジュネーラーカー、タイの十三ヶ国より成る委員会が発立され、一九七二年には、ルンビニー開発計画マスタープランが約九万ドルを投じて、日本の丹下健三教授の

当時の荒廃ははなはだしく、その記録写真には土中から僅かに頭部をのぞかせるアショーカ王石柱、灌木と雑草に覆われたマヤ夫人堂の小さい丘、沼沢のようなマヤ夫人水浴池などが写し出されている。発掘の結果、大小のスト

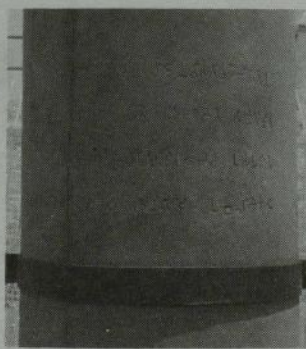
ウーバ、僧院跡、釈尊誕生のシーンを表す石刻のレリーフも出土し、巡礼者も訪れるようになった。

ルンビニーが再び世界の仏教徒の関心を集めるようになったのは、一九五六年、第四回世界仏教徒会議を機とし

手により完成した。総費用は、土地取得費、バイラパールンビニー道路建設費を除いて、六百五十万ドルが予定されている。マスタープランは四期に分けられ、初期計画の段階から、諸施設の完成までを含み、一九八五年を完成目標年度としている。計画によると、

現在マヤ夫人堂、アショーカ石柱の存する一帯を「聖域」として円形のゾーンを造り、北へ向って約五キロにわたる長方形の区域に、博物館、図書館、案内所、僧院、巡礼者のための宿泊設

備を建設し、付近一帯を緑豊かな宗教的聖域にするという大規模な試みである。しかし、諸施設建設より以前に、計画区域内での個人所有地の買収、再期における大小河川の氾濫対策、電力、飲料水の確保など、解決を要する問題が山積している。更にネパール政府はこの計画を通じて西部ネパールの開発にも意欲をもちやしており、ルンビニーの北方を通る、ロンドンに始まり、シンガポールに到るアジア・ハイウェイの建設の進展とも相まって、ルンビニー開発計画はまさに世界的なスケールをもったものになりつつあるといえます。各国の援助に加え、日本からも仏教界、財界、万博記念基金からの資金が相次いでいる。計画遂行については、種々の困難、問題点も多く存在することは否定できないが、仏教徒の一員として広く関心を持ち続けて行きたいものである。



アショーカ王の石柱碑文

# ガンダーラを訪ねて

(中)

東京ブティストクラブ 山田 一真

二月十三日(火) 最初におと手れた仏教遺跡ジュリアン・サイトを見学した後そこから、ほど近い場所にある古代の街シイルカブに、正午に到着する。

シイルカブは、紀元前二世紀にギリシヤ人によって造られた街の遺跡で、東から南にかけて丘陵があり、北・西にかけタマラ河が流れている。やや小高い平地に、当時代としては、良く区画がなされ

た街なみがしのぼれます。

私たちは、北側に開かれているゲートより入ったが、入口の両側には石積の城壁があつて、当時はこの街、全体を囲っていたのであろう。このことはヨーロッパの都市国家の形が残されていたことも思われるし、歴史的にみても、外敵・侵略者よりの守りでもあつたでしょう。

街なみは、南に向つて、広い道が長く真直ぐに通つており、中央部には東西の広い道が直角に交差し、その外に基盤の目のように路がついている。そのメインストリートを、ぶらぶらと歩いて行くと裕福な家や、過去の庶民が住んでいたであろう建て混んでいるスラム街なども立寄ることが出来ます。

街の奥の方には王宮もあり、中心街には、ストーパー跡のある仏教寺院や、双頭の鷲(拜火教)神殿があります。その寺院の礎壇にはギリシヤ風の門柱が形どられ、その間にこの神殿のシンボルと、鳥居の原形といわれているトラナーナが表わされているところなど文化の流れの興味

のわくところがあります。

街の道の両側には溝があり、各家庭、建物よりの下水を流す溝口もあり生活文

化の水準が計り知ることが出来ます。今はまったく人の住む家はなく、発掘されつつある場所ですが、街なみの中にある大きな一本の木が、その歴史を知つて立っているばかりです。僅かに二十名ばかりのおと手れがありました。この地方は、最下層が第四層で紀元前五・六世紀がベルシヤ・アケメネス朝期、第三層、紀元前四世紀アレキサンダー東征期になり、第二層は紀元前三世紀マウリヤ期に最上の第一層は紀元前一世紀以後となつており、歴史の深みとともに、東西文化の交流を肌身に感じ、その地に立つ感激を味わいました。

シイルカブからタキシラ駅に返す道の近い距離に、タキシラ博物館があり、そこに立寄る。さして大きなひとつに覆われた建物で、中はうす暗い感じであるが、この付近から出土された品々が展示され、私たちには珍らしさと、ガンダーラ美術にふれる感慨で一つ一つに見入る

先ほど訪ねたジュリアン僧院よりののしつくい塗の仏像や、土壇・モラモラド僧院のストーパーの頭部の外、この近隣に数多くあった仏教寺院よりの出土品や、各王朝時代の財宝物などが展示されています。ガンダーラを初めておと手れた者には何としても仏像の姿に驚ろかされるのです。釈尊滅後は、お舍利をまつるスト

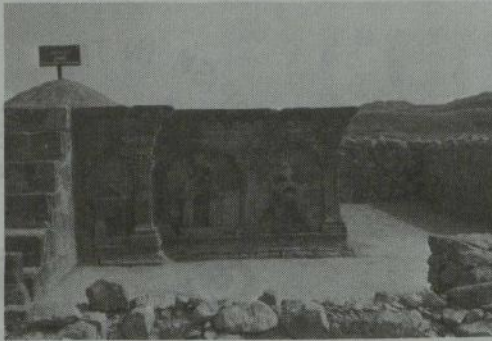
ーパーをその対象として信仰・崇敬を集めていたのでありますが、アシヨカ王によるインドから、このガンダーラ地方の平定と仏教流行によって、その時代にギリシヤ文化の接触によって、その対象とし

て像が調整されるようになったことを思い、衣の様子、顔の形などはまったくその影響下に入り、私たちの目になれたタイ・スリーランカ等南方仏教の仏像とはまったくの異質を感じる。衣のひだは、ギリシヤのローブであり、顔は彫りが深く髪も長髪を結い上げてまるで乗せているなど実に写真的に造られている。また、おやと思われるものに、ギリシヤ風になされた鬼子母神像がある。それも夫のパンテ・イカが脇に座し、母神には子どもたちががりついていて、その姿はまるで東洋の顔ではない。しかしいろいろ見聞するに鬼子母神の物語は、この地方で作られたようです。

今日は、ベシヤールまでの予定があり、数十分の見学であつたが、貴重な資料は、ほとんどベシヤール博物館に保存されているようです。ここで、ご参考のために、タキシラへのご案内をさせていただきます。

ラワルピンディーから三五・五キロの距離があります。鉄道はベシヤール・ラホール間の線が走っており、タキシラ駅がある。車でもラワルピンディーから三・四十分で着きます。

博物館は、冬時間(十月一日より三月末日まで)は午前九時より午後四時まで夏時間(四月一日より九月末日まで)は午前九時より正午まで、と午後二時より六時までとなっています。毎月第一月曜日は閉館しているとのことです。入場料は五〇パイサ(約USD五セント)です。(つづく)



シイルカブの双頭の寺院の鳥居

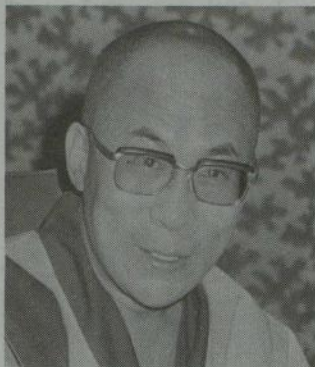
# 在ダラムシヤラのチベット 亡命政権に使いして

世連ダラムシヤラ訪問団

## 団 長 郡 司 博 道

### 僧俗十一名が参加

去る二月二十日から三月一日まで、十日間の日程で世連仏のダラムシヤラ訪問団が全仏の協賛を得て派遣された。団長の稲田隆興師が出発前に体調をくずされドクターストップ、筆者に団長の重責が廻ってきた次第である。顧問に中山寺派の池田登輝師、通訳は在日チベット僧のツルティム師、その他に谷垣俊治師、木下義昭氏、郡司正博師、見市正氏、藤原勝枝氏、安田美代子氏、山崎泰子氏、添乗員として相川忠重社長（千代田インナーナショナル）の僧俗十一名が参加。



……ダライ・ラマ猊下

（二月二十日）午前十一時に成田空港にて結団式。午後一時のJAL四六三便で出発、バンコク経由にてテリイ空港に着く。

（二月二十二日）午前中は市内見学。午後ダライラマ猊下（以下猊下）の在テリイ駐在代表部事務局長ダシウォンテ氏の案内でチベット会館へ。五階建の堂々たるビルで、チベット物産、文化財などを観賞。ホテルで夕食のあと、いよいよ目的地たるダラムシヤラに向って出発。亡命政権所在地ダラムシヤラへはテリイから鉄道で北行パタンコートまで約十時間、そこからジープで東行三時間、距離五百キロ、標高二千百呎のヒマラヤ山中にある。オールドテリイ駅で寝台車に乗り込み横になる。ディーゼル車で広軌なので震動は少ない。

### 目的地ヒマラヤ山中

（二月二十二日）朝八時半パタンコート着、亡命政権差し廻しのジープ三台に分乗して出発。道路は一応舗装されており、平地を猛スピードで二時間走行。やがて大きな河の流れにそって走り、また

剣しい山道にとかかる。

眺めのよい茶店のある場所で休息。近くの洞穴でラマ僧の説教があると聞き早速出向く。近よると洞穴の中から轟様の声（あるいは説教の声か）、のぞいてみると高僧のラマ僧を中心に徒僧が七、八名、それに大勢の信徒たちで洞穴の中は一杯であった。通訳のツルティム師とラマ僧たちが旧知の仲で、これ幸いとばかりに御紹介をいただき、写真撮影の許しを得た。

茶店からダラムシヤラまで剣しい山道をひた登り、ここまできて始めてジープの効用がはつきりわかった。雪におおわれたヒマラヤの山々が眼前に迫り、十二時半にダラムシヤラに着く。山の中腹の赤松の林に囲まれた静かな街だ。山小屋風のホテルに入って旅装を解き昼食。

文部省の事務官の案内で図書館にむかうが、これまたジープで山登り。ツッペンニチエ文相が玄関まで出迎えて下さり図書館長の案内で貴重な仏画、経巻などを見せていただいた。応接間で御馳走になったカフセという小麦粉を揚げた菓子の味は秀逸。そのあと医療センター、カーペット工場を見学してホテルへ。この夜は亡命政権政府で歓迎晩餐会がありチベット料理に舌つづみをうつ。

食後の文化交流の懇談会において、かねて文書で連絡してあった世連仏提案の国際児童年記念、日本・チベット児童画交換展示会の件で合意が得られ、日本で行なわれるチベット児童画展の日程が決定した。

東京会場 新宿住友生命ビル五十二階 展望画廊

期 日 八月十一日より二十日

出展作品 二百点

協賛団体 日本ユネスコ教育美術連盟

主 催 画材商社ペンテルKK

大阪会場 箕面学園 九月中旬予定

なお出展作品中の優秀三十点は同月十四日から十八日まで都美美術館で開催される世界児童画展特別コーナーに展示。チベットの児童画は本邦初公開、専門家の間でも話題を呼んでいる。

日本児童画展は十一月にインドの児童週間にダラムシヤラ亡命政権難民学校で開催される。

### ラマ猊下に謁見

（二月二十三日）早朝の気温一度、ホテルの庭に出るとヒマラヤ最西端五千呎級の山々が昇る朝日の中で光り輝いている。

朝食後に難民学校へ。学校は大学を除く総合学園で、校長は猊下の実妹ベマギヤボ女史。副校長の案内で各施設を見学する。すばらしい環境であった。特に印象的だったのは孤児ホームで、ここでは六歳になると仏法僧の三宝の尊さと仏の子としての生命尊厳を教えられるということである。ホームは全部で二十棟、すべて世界各国の民間団体から自発的に寄贈されたもので、アメリカホーム、カナダホームなど国名がつけられている。しかしホームを二巡して同じ大乘仏教を奉

昭和54年5月1日

する日本の名がどこにもないことを知ってびっくり。難民に対する理解度の低さと実践力の弱さを痛感、団員一同むなしい思いを残した。クレオン五十ダース、画洋紙二千枚を寄贈する。

午後には窺下のお寺である大乘寺を参詣し宮殿に伺候する。控室で一同衣服を改めて窺下に謁見。窺下の御居間に入室すると、スートお立ちになり一人一人にカーターという白帛を首にかけて下さり、合掌した御手をひらいて両手で我々の手を包んで下さる。暖かい柔らかな、大きな御手であった。団員一同感動で夢心地になり、事務官に促がされてやっと席につく。朝比奈会長のメッセージ捧読、記念品の贈呈、特に窺下の在日記念アルバム(カラー)はよほど気に入られたのか一枚一枚なつかしげに御覧になられる。今回の訪問はWFBの答礼とお詫び言上が主目的で、在日わずか二日間とは如何なる理由があったにせよ非礼の極みであった。(窺下との会見の詳細は仏タイ四月十五日号に書かせていただいたので割愛させていただきます。)

(二月二十四日)大任を果たしたさすがすがしい気持でタラムシャラに別れをうけジープでパタンコートへと帰途についた。

(追)孤児ホームの件について、世連仏の理事会で、仏教徒の慈悲の実践として広く仏教界に呼びかけ、浄財でジャパンホーム一棟を本年(国際児童年)中に寄贈することが決議された。

## —WFB日本大会一周年記念—

# 日・タイ仏教交流の翼

(バンコック5日間の旅)


■昭和54年10月22日～10月26日(4泊5日)

■旅行費用 ￥145,000円

### ■行程

- 第1日目 空路バンコクへ。着後バスでホテルへ。市内レストランで夕食。(ハイアット・ラマホテル泊)
- 第2日目 早朝水上マーケットを見て、終日市内寺院参拝(ハイアット・ラマホテル泊)
- 第3日目 日本人旧跡アユタヤと寺院見学。WFB本部訪問。(ハイアット・ラマホテル泊)
- 第4日目 ナコンパトム視察。ディナーショーを見ながら夕食。(ハイアット・ラマホテル泊)
- 第5日目 朝食後バスで空港へ。空路帰国の途へ。通関後自由解散。

■お問合せお申込み(取扱旅行社)

 **日本旅行** 五反田営業所

☎ 492-2940

■後援 全日本仏教会

資料(パンフレット)ご希望の方は上記へご連絡下さい。



バンコック郊外にあるナコンパトム寺院

おすすめのことは

第十二回世界佛教徒日本大会も盛況裡終了して早や一年を迎えました。

世界仏教徒連盟本部(バンコク)を訪れて友好裡に交歓会を催し、お互いに親睦をふかめたいと思います。

短期間ではありますが、仏教の盛んな国タイの寺院を訪れ、他どの旅行でも味合えないこの旅に、お誘い合せの上ご参加下さいませようおすすめいたします。

昭和五十四年五月

財団法人全日本仏教会

事務総長 鱒淵 正浩

# 第13回 仏教伝道文化賞贈呈式

## 長尾、土門氏に文化賞

### 功労賞は竹村、玉井氏

第十三回仏教伝道文化賞（仏教伝道協会主催・沼田恵範会長）の贈呈式は、三月二十七日午後一時半から、東京・芝の仏教伝道センターで行われた。

今年度の授賞者は、伝道文化賞に京都大学名誉教授の長尾雅人氏、写真家の土門拳氏、功労賞には安田生命相談役の竹村吉右衛門氏、本願寺米国仏教団名誉開教使の玉井好孝氏がそれぞれ選ばれた。贈呈式は芝原郷音楽地輪番の開会の辞のあと、葉上照澄師の三遍依文、つづい

て佐藤密雄選定委員長より選定委員会の審査状況報告があり、沼田会長から各受賞者に賞状・記念品が贈呈された。

引き続き受賞者に対して賞辞が述べられ、竹村氏に対して細木享弘元文部大臣が、玉井氏に対して辻頭隆米国仏教団開教総長（雲藤義道武蔵野女子大学長が代読）、長尾氏には増谷文雄元都留文化大学長、土門氏に対して岸哲一松学舎大教授がそれぞれ功績を賞えた。

私の自坊のあるところ

ろは「交通安全宣言都市」だそうである。

ある調査によれば全国六百四十五の市のうち、宣言をしているのが半分以上の三百七十五市もあるという。そういえば全国のおちちちで「〇〇宣言都市」の看板をみかける。

### 宣言都市

京都市の第一号は、昭和二十五年の「世界連邦平和宣言都市」といわれているが、時代とともに平和宣言から、交通安全都市へと移行し、暴力追放、公明選挙などを宣言する都市が増えており、緑化運動、親切運動などもよくみられる。

電披露のあと受賞者の答辞があり贈呈式を終えた。

### 仏教聖典の贈呈運動

仏教伝道協会がインドネシアへ

仏教伝道協会（沼田恵範会長）では、昭和三十七年に「仏教聖典」を日本中のホテルに置く運動をはじめ、今日までに五十万冊を超える「仏教聖典」が贈呈されている。

同協会では、さらに海外にまでこの運動を広め、シンガポール、韓国、台湾、ヨーロッパにまで贈られ、日本語、英語ではじめられたものも、フランス語やポルトガル語訳も完成し、釈尊の教えを弘めるための努力は、内外より注目されている。

特に第十二回WFB日本大会の地方大会では長岡市に「和英仏教聖典」が三百冊余贈呈され、また海外代表にも贈られ喜ばれた。

四月にはインドネシアにも贈呈され

変わったところでは無雪都市、無公害都市、無雑音都市や、鳥もすめる環境都市、地盤沈下非常事態都市などというものもある。

とかく宣言というのは、よくも悪くも繰り返しかえされるといえるが、まわりの人は「ああ、またか」と思うことさえある。WFB大会や全仏大会も宣言のしっぱなしなどといわれぬよう実践しなくてはならない。

ジョクジャカルタにて贈呈式が行われた。沼田会長はこのあともブラジルに同じ目的達成のため赴くことになっている。

### 本門法華宗で宗章紋



本門法華宗の宗章紋が承認制定されましたのでお知らせいたします。（宗章紋の意味）本門法華宗の教義を象徴化したもので、法華経一部八巻を外縁の円と八葉の蓮華で表わし、中央の円中に本門八品を図案化してとりいれたものです。

### 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

昭和54年5月1日

# ヨーロッパに 広がる禅の心

現在フランスでは曹洞宗ヨーロッパ開教総監の弟子丸泰仙師の下で、禅の力強い伝道がつけられています。既にパリに仏国禅寺、郊外のアバロンに大乘禅寺と大乘仏教研究所が設立され、更にヨーロッパの主要都市に六十数ヶ所の禅道場が開設されているといわれています。また二十数方の会員を擁し着実に布教の成果をあげ、ヨーロッパの物質文明の中に東洋の思想が市民的宗教として花開いております。ドイツ仏教会のマックス・ケラシヨフ会長もWFBの四国地方大会の講演の中で「ドイツの国民性と禅(瞑想)がピッタリする」と述べているようにヨーロッパに広く展開されているようです。

なお、これらヨーロッパにおける禅の心をたずねる視察旅行を千代田トラベルが企画しております。詳細は同社におたずね下さい。

## 日宗連で役員改選

日本宗教連盟(教派神道連合会、全日本仏教会、日本キリスト教連合会、神社本庁、新日本宗教団体連合会)では四月十九日午後四時より、立正佼成会法輪閣において理事会、参議会を開催し、役員改選などについて審議した。

五十三年度の事業報告、決算報告や五十四年度事業計画、予算案などが承認さ

れたあと、改員の改選が行なわれ新任理事長に新日本宗教団体連合会理事長の庭野日敬氏が就任した。

なお全日本仏教会関係者は次の通り。

理事 町田宗夫 全仏理事長  
監事 鱒淵正浩 全仏事務総長  
参議 桜井大乘 全仏常務理事  
野村宗春  
白川良純 全仏文化専門委員  
島田弘道 全仏庶務部長  
花木義光 全仏組織部長

日宗連の事務局は明年が全日本仏教会の年番となる。よって明年は理事長ならびに事務局長を全仏でひきつうけることになる。

### 事務総局録事(四月)

- 六日 局内会議
- 十日 仏教顕仰会花まつり出席
- 十日 増上寺打合せ
- 十八日 全仏引越し
- 十九日 日宗連理事会
- 二十三日 局内会議

### おねがい

「全仏」誌の記事、情報などをお寄せ下さいませようお願いします。特に諸団体、地域仏教会の活動などをお待ちしております。(連絡先)全日本仏教会文化部宛%東京都港区芝公園四一七(一三)

昭和五十四年五月一日発行  
五月号 第二四八号

発行人 樽 潤 正 浩  
編集人 安 本 利 正 浩

発行所 財団法人  
全日本仏教会

東京都港区芝公園四一七(一三)  
電話〇三(四三七)九二七五

## —デラックス 13日間—

### ヨーロッパと禅の心

期日 昭和54年5月23日(水)~6月4日(月)

パリ、モンパルナスの仏国禅寺、アバロンの大乘禅寺に弟子丸泰仙老師を訪ね、参禅に励むフランス人達と友好を深めた後、2コースに別れてヨーロッパ最高の季節を楽しみながら、各地を観光する素晴らしいヨーロッパ旅行です。

- Aコース：パリ~アバロン~ニス・カンヌ~モナコ~ピサ~フレンツェ~ローマ~東京  
Bコース：パリ~アバロン~チューリッヒ~インスブルック~ザルツブルグ~ウィーン~東京  
参加費用 Aコース 550,000円  
Bコース 557,000円

## 特別企画 中国友好の旅

6月13日出発(15日間) —余席若干有—

コース：広州~成都~西安~上海~東京

参加費用：425,000円

## —夏におくる海外旅行—

- 7月23日発 11日間 秘境小チベット・ラダックの旅
- 7月30日発 10日間 スリランカー一周とペラヘラの祭り
- 8月9日発 14日間 インド・ヨガの旅
- 8月17日発 10日間 シルクロード歴史と美術の旅
- 8月20日発 11日間 インドの魅力を探る旅
- 8月24日発 10日間 シルクロード歴史と美術の旅

この他、仏跡参拝団などの団体旅行のご相談もお受けいたしております。海外旅行のことなら何なりとご相談下さい。

—詳しいパンフレットご希望の方は下記まで—

当社作成の「仏跡参拝」の小冊子をご希望の方は無料でお送りいたしております。ハガキでお申し込み下さい。

取扱旅行会社  
運輸大臣登録一般第154号  
**株式会社 千代田トラベル**  
東京都港区南青山5丁目6番20号(千成ビル)  
電話 407-3612 (代表)  
400-5100  
郵便番号 107